

指導教員によるコメント

青木敬子さんの今回の海外調査は、彼女が執筆を予定している博士論文（英国における母語教育と文学教育の関係の考察）のために、20世紀以降にカテゴリー化されてきたハイカルチャーとローカルチャーがいかに母語教育に作用するかを検証するものであった。今回大変意義深いことは、そのような文化の階層秩序そのものが、教育の不平等と結びついた人為的な虚構であり、むしろローカルチャーを、大衆の表象が生み出した新しい独自の文化と捉え直して、公教育との関係を考察する必要があるという視点が浮上したことである。

公教育における母語教育と文学教育の関係は、一つ英国に留まらず、日本を含め、近代の国民国家においては避けて通れない主題であり、今回、植民地主義のみならず階級分化の位相で上記の考察が必要なことを確認できたのは、大きな収穫だった。併せて、当地での研究者や教育者との研究交流も深化してきたので、博士論文執筆における資料の厚みに貢献すると思われる。今回の知見が着実に博士論文として結実することを願っている。

竹村 和子（お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科 教授）